

## 史料 『愚管抄』(巻三)

物ノ道理 ヲノミ思ツゞケテ、…世ノ中モ  
 ヒサシクミテ侍はベレバ、昔ヨリウツリマカル  
 道理モアハレニオボエテ、…保元ノ乱イデキテ  
 ノチノコトモ、マタ世継ガモノガタリト申もう  
 すモノヲカキツギタル人ナシ…ソレハミナ  
 タゞヨキ事ヲノミシルサントテ侍レバ、保元以  
 後ノコトハミナ乱世ニテ侍レバ、ワロキ事ニテ  
 ノミアランズルヲハバカリテ、人モ申ヲカヌニ  
 ヤト、ヲロカニ覚テ、ヒトスチニ世ノウツリカ  
 ハリ、オトロヘクダルコトハリヒトスチヲ申サ  
 バヤトオモヒテ思ツゞクレバ…コレヲ思ツゞ  
 クル心ヲモヤスメント思テカキツケ侍也。

【口語訳】歴史を動かしてきた道理だけを考え  
 続け、世の中も久しく見てきたが、昔からの  
 歴史の移り変わりは興味深いものがある。保  
 元の乱ののちは、世継物語(『大鏡』)に続く歴  
 史を書き継いだ人もいない。それは皆が良いこ  
 とだけを記そうとし、保元の乱以後はずっと  
 乱世で悪い事ばかりなのを遠慮して言いおく  
 人もいないからだと思考して、ひとすじに世が  
 移り変わり、衰え下つていく理由、その筋道  
 を述べたいと思いつけてきた。その思いをとげ  
 て心を安めたいと考え、書いてみた。